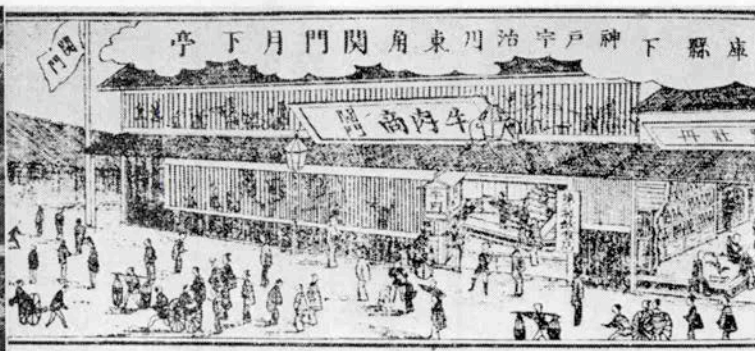


心にのこる OLD KOBE ああスキヤキ

7 あおば しげる



左は明治4年、開店当時の大井肉店。この建物は昭和41年に愛知県犬山市の明治村に移された。右は元町6丁目、肉ナベの店「関門下の月下亭」の様子(明治2年)

★ふんだんに上等神戸肉を食べた時代

「ああスキヤキ」と昔から牛肉好きの私などは、今でもスキヤキに大賛成の声をあげるが、昔と今ではこの嘆声にもだいぶん内容の違いが出てきた……。つまり、昔(大正末―昭和初期頃)は文句なしの感嘆の声だったが、今ではあまりの高値で手離しで喜んではいられないし、昔ほどうまい精肉に出くわさぬことが多いような気がする。という、安物で辛抱するからだとか、お前の年齢を考えると人からいわれそうだが(そして、それにも理由があると思うが)とにかくあの頃は日本一うまい神戸肉のスキヤキの味を庶民的な値段でたんのうさせてもらったものだった。私の父がとりわけスキヤキ党だったのでよけいにスキヤキの機会が多かったせいもあるが、よく母から「今晚はスキヤキだよ」といわれると、当時中学生だった私は勝手なものでどんな理由があっても、その時間帯には帰宅したものだ。特にロース肉を奮発して多く混ぜた時の味は格別で、父など好きなビールで目を細めながら大いにごきげんだったし、私自身は上肉のとりけるような美味を舌先で味わいながら、同時に飯をかき込むのに一心だった。

だが、大正末期から昭和の二、三年頃までは、まだスキヤキを好む家庭はそう多くなかった。私の祖母などは「四つ足のものは食べぬほうがよい」という世代のなごりを残していたし、新鮮な魚類が豊富なうえ、値段も牛肉より安かったから、牛肉を常用しないところが多かった。それが四、五年から急激に牛肉党がふえてきた。生活の西洋化が進んだせいもあるし、栄養化の知識が普及してきたせいでもある。当時の値段は並肉(なみにく)で百々四十銭(百グラム約十銭)ぐらいだったが、野菜が二十銭ほどでかなりかえたから、今日と比べればスキヤキとしてやすかったわけ。それに中国の青島(チンタオ)から安値のチンタオ肉がどんどん輸入され時期もあってよけいに牛肉食が一般化した。なお、この頃喫茶店のコーヒー一杯が十銭、ミルクが八銭、たばこのバット

が七銭だった。けれどもこの普及も貿易港コウベこそで、他の都市や農村ではまだまだ肉食は少なかった。まさに外人の多いコウベにふさわしい洋食化のあらわれだったわけだ。

といっても神戸の牛肉食の歴史はそれよりずっと古かったわけだ。「兵庫県畜産科」の資料によると、いまの印南郡志方町の武士安藤鎌右衛門が肉食を好み、牛をほろることを始めた。元禄はじめに同人が死に、その後肉食者がふえたが、安政年間になると、牛肉を細かく切って煮つけ、縄にかざし、日に乾かしていたものを各所で売っていた、という。神戸で肉食をうながすキッカケになっていたのはなんと、これも慶応元年、英仏米蘭の軍艦九隻が兵庫港に入って、牛、ブタの肉をほしがったことである。古い土地柄の兵庫ではだれも応じない。困った外人は長田村の糸木部落へ行き、二、三人の牛商人をくどいて数頭の農耕用の牛を得た。はじめは船内で屠殺していたが、慶応二年はじめて和田岬の松林で外人が屠殺。翌年一定の屠殺場が作られた。明治新政府が初めて兵庫へ送った代表団に洋行帰りで肉食党のハイカラ青年伊藤博文がいたことも肉食普及に拍車をかけた。

明治二年には元町六丁目山側に「月下亭」という肉ナベ専門店が現われた。牛肉料理屋第一号といえる。土地の農夫岸田伊之助（現在の「大井肉店」の先代の一人）が弁天浜に來港した外国船の船長に生きた牛の納入を頼まれたのがこのころ。農耕用の牛を納めたところ、意外ともうかる。外国船への納入分とは別に、ひとにぎり一厘で小売りを始めた。これがやがて人気をさらって港湾労働者から一般市民へひろがった。いま三越の北西筋向いにある明治四年開店の大井肉店（現社長＝岸田伊兵衛氏）である、こうして神戸における肉食はしだいに有名となり、他地区へもひろがり出したが、おかげで牛が近辺では不足を告げ出したため、岸田伊之助らははるばると但馬まで出掛けて但馬牛を買うことになった。むろん鉄道はまだなかったから歩いて出掛けたが、途中追いは

ぎが出るがあつたため金持ちに見られぬように胴巻きを荒縄の帯の下にかくしてできるだけ粗末な姿で往來した。

帰る時は牛追い人を二、三人連れてぞろぞろと戻ってきたものだった。これが日本一の神戸肉と但馬牛とのつながりである。後年但馬牛の優秀さが認められて、三田へも移入して三田肉となり、三重県の松坂へも移入して「松坂肉」となった。昭和初期には朝鮮から赤牛が種牛として輸入されたが、赤牛も交配後は肉用に供された。当時は牛の好きな雑草がふんだんにあり、麦を常食にさせていたから、草食が乏しくなっている今日とは格段の相違だった。今日の肉のまずいのもここらあたりにある因があることはたしかである。

さて、昭和初期には盛り場に牛肉料理屋が続々と出現した。新開地方面では、ハナヤ食堂、日之出庵食堂、大安、大正軒、三宮元町では、菊水、弘養館、八百丑（肉屋）大丸と三越の食堂、神戸駅前では三輪（みつわ）等が競争で各種の牛料理を売り出した。それがやがて宣伝合戦ともなり、新開地の各店の中にはついに客寄せのためのサービスとして山中芸妓を呼んで芸をさせたり、ビクター・レコードの専属芸妓十数人を呼んで日本舞踊ショーを行なったり、相生座の入場券をサービスしたり、レビューをみせたり、ついにはあやしげなエロサービスに近い振舞いをするところまで現われた。値下げ競争が始まったのも当然である。純内地肉ロースを使った肉食が一皿三十銭から四十銭。ビーフステーキ二〇銭、ビーフカツ十五銭、スキヤキが一人用五十銭といったあんばい。一本二五銭のビールを飲みながら最上の精肉料理に舌つづみを打ったあの頃、「ああスキヤキ」という戦前派の人々のため息も無理からぬことだろう。

（五〇・二・二八記）

注 岸田伊兵衛氏（大井肉店社長）と「神戸史話」「神戸新開地物語」などの御教示にお礼申します。

うわの空

—空しい空の旅—

竹田 洋太郎 (在ニューヨーク) え・たかはし もう



石油危機以来、文字通り火の消えた淋しさだったマンハッタン夜景も、近ごろは不況からの回復を祈るかのように、ことさらに明るく装い、港の入口にかかるペラザ・ナロウ・ブリッジには再び電飾がつくようになったくらい。

そこで、ちよつとニューヨークをはなれて、あてどのない文章の旅に出てみようと思ったのが、先日、日本へ帰る飛行機の中だった。題して「うわの空」——この題を考えたのは、それなりの理由がある。空の旅、このごろはだれもが、新婚旅行や観光や、出張で利用する空の旅が、実に空(むな)しいものと気づいたのが、ジャンボの機内であった。

なん年も前にはじめて東南アジアの視察旅行に出かけた時も、また米国へセミナーに出たり、見学する旅行に出たときも、伊丹や羽田の空港を飛び立って、飛行機がぐんぐん上昇姿勢をとった時、目的地への期待、はじめての土地への不安といったものがまじり合って、軽い興奮を覚えたものである。

ところが、先ほどの帰国には用事をかかえて、しかもニューヨークからロスアンゼルス、さらにホノルルと三段飛びをしなければならなかったが、その機内で、生まれてはじめて、空の旅の楽しみが、全く味わえないことに気づいた。その一つの原因は、世界を覆う「不況」だったのかもしれない。

早朝、ニューヨークのケネディ空港から、ロスアンゼ

ルス行きの国内線ジャンボに乗りこんだ。ジャンボはたしか、三百人余りの客を乗せられるはずである。だが実際のお客は六十人ばかり。私は煙草をすうので、一番後部の窓側座席を希望したら、百人分近い座席にすわったのは六、七人のお客だけ。尾部は少々ゆれるが、ゆっくり足がのびせるし、と思っていたら、エライことになりはじめた。ときどき前線を通過する時に、あのバカデカイ機体が猛烈にゆれるのは仕方がないとしても、後部の座席から前を見ると、あの機体がねじれるのである。

もちろん飛行機の機体には弾力がもたせてあって、ねじれたり、ふるえたりしなければ、かえって危険なことにはわかつている。だが乗っている人間としては決して気持ちのいいものではない。そこでまた考えたのは、世界中の空を常に何百機か、ひよつとすれば何千機かのB747というバケモノのような飛行機が、私の乗っている機のように、大してお客も乗せず、轟々と飛び交っているという事実だ。

これはなんと空しいことだろう。B747、それを利用する人たちによって運営されている「多国籍企業」。私もそんなところで働く人間なのだが、さらに土産物を買うだけの観光客、どこへ行っても同じなのに外国を選ばず新婚旅行、家族に大きな犠牲を強いる海外転勤(日本人も外国人も)これらすべても全く空しいことじゃないか、と思いはじめた。

神戸に帰ってこの感想を友人に話すと、



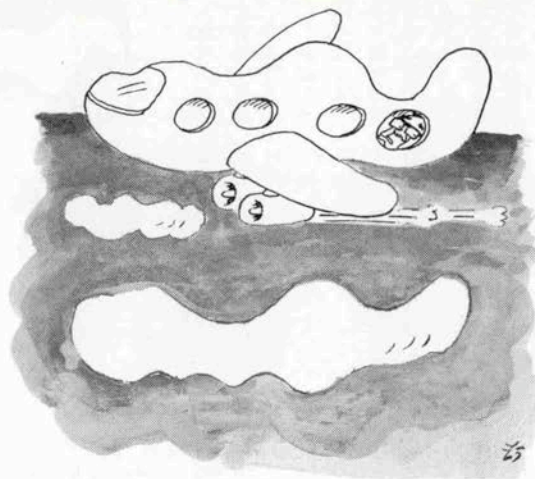
筆者

「洋ちゃんは初老性うつ病でそんなことを考えたんじゃないか」といわれた。それもあまるかもしれない。だがこれも一般化して考えると、私たちが「現代」といつている時代、それ自体が初老性うつ病の時期にはいったのではない

か。世界的なインフレ、不況、失業……前途に希望は全くないではないが、人類の将来を考えると、まあ「先細り」じゃないかというような時期なのである。

ハワイからのジャンボ機は、さすが日本人観光客で満員に近かったが、騒々しいグループや、いきたなく眠りこける人々など、まあ帰途についた観光バスと変わらな

い。私の感じた空しさは一向に解消せず、前線に突入す



『地球全域、初老性うつ病』

るたびに、いまままでにない不安に襲われたが、幸い隣りに海外布教師をやっている曹洞宗の禪僧がおられ、話をしていると、気分が安らいだ。私はべつに禪宗ではないが、こんな時にお坊さんにそばにいてもらうのは実在がたい。

ところで、さきほど「現代」という言葉を出したが、歴史家の時代区分はどうであれ、現代を象徴するものは「飛行機」であろうと思う。

ライト兄弟、さきほどなくなったリンドバーグ、こういった人々の名はすでに歴史の中へ去ってしまった。しかし、この人たちが「現代」をもたらしただけという。そして、飛行機が私たちの世代の、というより私の運命にどうかかわっていたかを考えれば明らかだ。私の世代の日本人の多くの運命に、最大の力を及ぼしたのは、思い起こしていただきたい。B29なのである。そして、さらに高空を、むなく飛びかい、まるで現代の世界をオレが支えているかのような顔しているのがB747である。ボーイングという一つの会社が私の、あなたの今日と、どうかかわり合っているかを考えると、空恐しくなるではないか。

神戸で私の友人からネクタイピンを一つ贈られた。それはかつて伊丹飛行場（空港ではない）で戦時中、赤トンボといわれた練習機に乗っていた学生航空連盟が最近そのOBの集いをしたときの記念だという。

私は近視で操縦はできないので、この練習機の整備に油まみれになり、整備の終わった機に試乗させてもらうのが当時の大きな楽しみだった。このネクタイピンをくれた友人は、ガンコにも一切ジェット機には乗らないと、海外旅行も拒否している。団体観光客が免税で買ったウイスキーの袋をもってドヤドヤ乗り込むようなものはヒコキとはいえない、というわけだ。

だが東京からニューヨークまでの帰途はこのネクタイピンのおかげか、そう恐しい、空しい思いをせずに空の旅が続けられた。

淀川立見席 39

淀川 長治 〈映画評論家〉



こわい映画
おもしろい映画
きびしい喜劇
チャイナタウン
ゆかいな仲間
キッド

「チャイナタウン」はロマン・ポランスキー監督の脚本と監督。全篇これレイモンド・チャンドラー・スタイル。ポランスキーはポーランド人。それなのに「ローズマリーの赤ちゃん」のニューヨークといい、今度の一九三〇年代のロサンゼルス of 暗黒ムードといい、いまやアメリカ映画のそれもフロイド的タッチが肌につく。もつともこの監督の「袋小路」はアメリカのギャング映画にフランク・キャブラのアメリカン・タッチが匂った。

私立探偵(ジャック・ニコルソン)のもとへ一人の婦人。富豪の若夫人めいた女。夫に女が出来た。その現場を掴んでくれ、報酬はいくらでも。探偵は乗り出した。

男にはまちがいもなく女がいた。その男。ロサンゼルスの新ダム建設に反対の科学者だった。ロス土地がら

もろい。ダムを作れば危険

だ。さてこの男と女の一件がゴシップ新聞に出ちまつた。その日、駆けこんだのがイブリン(フェイ・ダナ

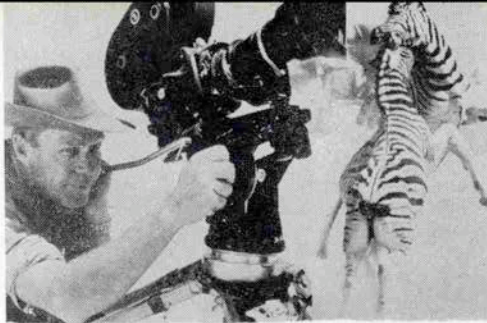
ウェイ)という、実は本当のあの男の妻。とすると最初の女はニセモノ。さあこ

こから本題にはいるのだが、このサスペンス、種を

明かしちゃ申し訳ない。

もつともこの映画、種を

▲ライオンも蛇もキリンも「ビューティフルビーブル」



知る……ちゅう映画じゃござんせん。ただもうアレヨアレヨのストーリー展開のそのスピード。このイブリンに

父(ジョン・ヒューストン)がいる。この父がロスの顔役。題名が「チャイナタウン」ゆえ全篇中華街の中国メ

ロディ伴奏と思うと大まちがい。チャイナタウン……ラストにいたつてこの中華街の宿がチラと登場する。本篇

はジェリー・ゴールドスミスのロサンゼルス的メロデ

イ。それではこのチャイナタウンとは？ チャイナタウン式の犯罪と刑罰と謎と……という、この題名にはその

ふくみがある。

いきな映画だから映画好きはニヤリ。チャンドラー愛読者はさらにニヤリ。ところが今日生れて初めて映画を見る人にはこのストーリー展開は追いつけない。

『ゆかいな仲間』……動物記録映画。なァんだと申す勿れ。この一時間三十一分ゆかいになりつぱなし。とい

うのはこれを四年がかりで作ったこの記録映画作家ジャ

ミー・ユイスはこの映画の原題に示す『ビューティフル・ビーブル』そのままだに彼らを愛し彼らを仲間として撮

影。食うか食われるかの肉をむさぼるハゲタカもライオンも出てこない。ライオンのオスはアクビしたあと威厳

をたもちメスの前をユーユーカッポ。メスたちはオスの

カライバりに「なァんや」という顔。
さらにこの映画。肩書きに(ある連中は彼らのことを動物と呼ぶ)と加えている。場所はアフリカ南西。カラハリ、ローデシア。



▲1930年代のロサンゼルス暗黒ムードとフロイド的タッチ。



◀▲こわい「チャイナ・タウン」



▲私はこれを大正10年、12才の時新聞地で見た

砂漠のチッコイ動物から砂上の蛇のダンスからやがて草原の動物へとカメラを向けて、草原に実るオレングシそっくりの実を猿もキリンも象もイボイノシシもが食って、その実が、なんと彼らの腹の中でハッコウしアルコール化して、みんなが二日酔いのへべれけになるサマの面白さ。

ダチョウの卵はオスが守る。その卵を猿一匹がラグビーのタックルよろしく盗む。ダチョウがその猿を追う。ダチョウのスピードには猿もギャフン。あたまをこつかれ猿一目散。卵はポイと投げ出す。その卵をダ

チョウは足とクチバシで上手にもとの巣へ。

かんばつ……陽でり……ここはちよいと凄。晴れ上った空……雲ひとつない。夜の月、雲が流れだす。助かった、雲が出た。それが夜明けの太陽とともにその雲一片だにあとを残さず消えさる残酷。さて水無しの苦痛。ここに初めてブッシュマンなる草原土人……人間が登場する。十人くらいの原始生活。この人間、猿を見てその一匹の猿にボイと岩塩投げた。塩はアフリカのためからもの。猿はあわてて口にはうばる。ブッシュマン、ジーツとその猿を見ている。やがてエテ公、咽喉がかわいてきた。がまんならなくなった。走りだした。とんとん走る。待ってましたとブッシュマンそのあとを追う。ついに猿は猿仲間だけが知る秘密の泉へ。その地下岩穴のまた奥の奥の泉へ馳け込むエテ公。ブッシュマン、水だと大喜び。人間のなんたるワル知恵。まだまだこれはジョ

の口ながらもう紙数なし。

『キッド』これぞチャップリンが始めてチャップリンの本格名作への第一歩。一九二二年、大正十年、私は十二才でこれを神戸の新聞地で見えて笑って泣いた。泣いた

のが八〇パーセント。笑ったのが五〇パーセント。三〇パーセントはみだしたがそれくらい見事な映画だ。いま再び見るやまた泣いた。子を捨てた女（エドナ・パビーアンス）、拾ったルンペン（チャップリン）かくて五年。その子（ジャッキー・クーガン）とチャップリンの愛の生活。生きるがためのガムシヤラのこの子供とこのチャップリン。女は今や一流歌手となっていた。わが子のことで泣きぬれて。チャップリンはこのメロドラマを芸術に昇化した。チャップリン映画は不死鳥だ。サイレント映画その流れる画面展開。そしてチャップリンはあらためてこの名作に彼自身音楽を加えた。

女体百景

《33》

H・ジュニア

え・浅野俊一

白い巨像

H・ジュニア氏を乗せたラインの遊覧船が右に大きく旋回すると「なじかは 知らねど 心わびて……」の歌で名高いローレライの岩山が、頭上に掩いかぶさるように右手上方に現われた。頂上には西ドイツ国旗がはためいている。船内に溜め息とどよめきが起こる。

今朝から、前甲板のデッキチエアの群れの中に身を委ねたままのH・ジュニア氏は、この瞬間、ニヤツと横目で、細身細面十代の清純なドイツ・メーチェンの方に微笑を送った。彼女も、H・ジュニア氏の方を盗み見して一瞬、頬を真赤に染める。彼女は百姓風の両親らしき人物と並んで、H・ジュニア氏と同じ甲板の少し離れたデッキチエアに今朝から腰掛けていたのだ。

「彼女を抱けば、彼女はすべてを許すだろう……。しかし、言い寄るには、彼女は、もぎ立てのラインのブドウのように痛々し過ぎる。」

彼は思いとどまり、船は、予定通り下船場に着いた。彼女は両親に連れられ、H・ジュニア氏の方を振り向き振り向き、惜別の情を残しながら、彼の視界から消えて行った。

高速道路をフランクフルトへ引返したH・ジュニア氏

は、見果てぬ夢のうつつぶんを、その夜、エロスセンターに晴らさんと駅前ホテルで腹ごしらえし、いざ出陣と外へ出たが、黒人が四人五人とあちこちにたむろして無気味だ。

「スケベーご覧なさいノ チンコ・マンコ・ショーノ」と、日本語で客を引く実演小屋まであるエロスセンター界隈は、ここから歩いて十分の所、時計を見ると、へまだ七時だ。少しアルコールを入れてからでも遅くはない」と、すぐ近くの地下のビヤホールに入った。

いわゆる国民酒場というやつである。

「ブンチャカブンチャカブツブツ」と、地下のホールは軍艦マーチの向うを張った楽隊に合わせて、酔い踊り狂う大衆ですし詰めた。

やっと、空席を見つけてH・ジュニア氏は同行のI青年と大ジョッキを注文し、あつ氣に取られて、場内を観察した。《体育館といってもいいほどの、質素な作りのよくもこんな殺風景なムードと音楽で、これだけ我を忘れることができるものだ。ドイツ人は、何と徹底して節約家なのであろうノ》

男も女も平服であり、どちらを向いても、ガツシリ、ドッシリして、ナヨナヨした人間はどこにもいない。しばし、本場のビールでのどをうるおし、落着きを取戻してみると、何とあちこちに、三人、四人と、一見それとわかる、毒蛾のような化粧の女がたむろして、巨象のごとき巨軀をもて余し気味にテーブルに向い、ビールを飲みながら、虎視たんたんH・ジュニア氏とI青年の方を、ジロリジロリねらっているではないか？

その中に、ひとときわ目立つて巨乳の女が目についた。ボス格の白き巨象といった巨軀の持主である。髪も黒々目もパツチリ黒々、色白で、首も象のように太い。特にその巨乳ぶりは、巨砲一突き、百万の敵を圧する太さで前方へ突出している。実に見事だノ ウエストなど、どこ吹く風、太鼓腹もいいところ。黒々とふち取りした化粧は、毒蛾のあのブヨブヨした腹部を連想させるに充分



だ。

H・ジュニア氏は一瞬、へんなすもうとりの様な女と果たしてどんなふうになっちゃうのかとセックスすればいいのだろうか?と、疑念が頭をよぎった。

その時、連れのI青年の傍へ、今まで女と踊っていたドイツ人の酔払いの老人が青年の歓心を買おうと、満面に微笑を浮かべ、ウイスキーをして近づいて来るではないか? 老人は青年の前でひざまづいて、一本のバラの花を両手ではさみ青年に捧げようとする。

H・ジュニア氏は、あっ気に取られて見とれていたが一瞬、人の近づくと心配に後を見返すと、何んと! あの毒蛾のように化粧をした白き巨象の女がのっそり近づき、今しも、H・ジュニア氏の腕を取ろうとしているではないか! 一瞬、寒気が背筋を走った。

彼女が前かがみに裸身になると、陰毛はさながら象の

陰毛のごとく、お腹は二重三重に波打って、さながら象の腹部のごとくであった。向うずねに毛がチヨロチヨロ数本生えているところなど、正に白象である。

《案ずるより生むが易し!》

巨象の両ももに片足ををはさまれ、彼自身も面白半分、揺れ動く流動物、乳房を揉み揉みする内に、H・ジュニア氏のジュニアは巨象への挑戦の姿勢を示し始めた。彼女が上向きに寝ると、あれだけ巨大なお腹もいささかは小さく見えた。

しかし、H・ジュニア氏もやせている方ではない。二人の下腹部はピチャツとひつついた。寸分隙間ない股間に、彼の逸物がはさまれた途端、

《入れたという印象より、パクリと食べられたといった感じだ。自分のシンボルがもはやどこへ行っただか、溶けて無くなったとしか思えぬ感触である!》

彼の首根っ子は、彼女の両巨砲の間に押えつけられ、下半身は、両ももではさみうちに合い、おまけに、両足首をH・ジュニア氏のふくらはぎにひっかけたぐいとひっぱられると、何んともいえぬいい気持ちだ!

《昔、貴族が愛人を脂肪ぶとりさせた理由がわかって来た》

H・ジュニア氏は、必死に目をつぶり、あのライン河の少女の裸身を思い浮べて、果てた。

そして、彼は、抜こうとした。ところがである。次の瞬間、世にも不思議な事が起こったのである。

《抜けないではないか!》

事実抜けないのである! 抜けないのも道理、巨象の穴は、H・ジュニア氏のゴールデンボールまでくわえ込んでいるのだから!

言葉をかえれば、彼女の玄関口は大広間になっておりしかも奥の間に通じる、のれんのかかった入口が手ぜまなのだ!

お分りかな?

ぴっと・いん



★「ムーンライト」姉妹店
大阪・北新地にオープン

「ムーンライト」のママ
浜田富栄さんの二世孝一さん
の店が大坂にオープン。
フランス料理と酒の店、グ
リル&バー、キャラック。
ピンクに輝く入口のネオ
ンがまず目につく。店内は
白い壁と白木造りのあつさ
りとした感じで、カウンタ
ー席が十一ある。



雰囲気もステキな「キャラック」店内

フランス一品料理として
エビとシヤンピニオンのパ
イ包み(千円)、キッシュ
ローレン(ハム、ベーコン
チーズのパイ、七百円)、
帆立貝のグラタン(八百円)、
牛肉赤ブドウ酒煮込み(千
八百円)などが好評で、毎
日変わる自家製デザートも

喜ばれている。
大阪市北区曽根崎新地二の四〇
番六(三三四)〇三六
営業時間5・30P・M11A・M

★コーヒージャラリ

ローズマリーは
ローピンゲイ、マンハッ
タンズ、ヒューズコーポレ
ーションなどのソウルがか
かっていて、イノダのコー
ヒー(200円)はカリタ
式、オセロゲームが大人気
で、ほかにもイスラエルの
マスターマインドなど新し
いゲームを意欲的に開発
中、店主の服部真琴氏はこ
れをいい顔して、写真に撮って貰おうネ



まわりくんのファンで少年
チャンピオンほかを読み放
題、ソウルの情報ならなん
でもいち早く聞け、ハンバ
ーガーピラフ(400円)、
フルーツジェリー(250

円)もとても美味。

ローズマリー 番三三二一・二七二
元町1番街浜崎キヨミヤ車入ル
11A・M7P・M 水曜休み。

★サテンドール「周年
パーティーへのお誘い

ジャズの店「サテンドー
ル」は四月二十五日に満一
周年を迎えるが、この日は
午後七時から十二時まで立
食パーティーを開催する。
腕によりをかけた料理と豊
富な洋酒が自由に楽しめる
し、宮原透トリオホッカル
ルのステキな演奏も予定さ
れている。会費は男三千円、
女二千円で予約受け付け中。
生田区中山手通二丁目57 富士産業
ビル二階番四二一〇一〇〇

★青チャンの

グラタン小屋がオープン
。五つの銅貨。などでお
馴染みの青チャンこと青田
憲幸さんがこのほどグラタ
ン小屋「エルパソ」を開い
た。場所は元の「五つの銅
貨」。しばらく店を閉めて
いたが、このたび装いも新
たにオープンしたもので、
グラタンとピザが売りの
ビールや水割などもあり、
気軽に飲んだり食べたりが
できる楽しい店にしたいと
青チャンは張切っている。
マイクの設備もあるので、
仲間と来たときには自慢の
のどを披露してもいいし、
青チャンも歌ってくれる。
一度寄ってみては？

●神戸うまいもん
とドリンキング

ステキハウス
グリル青山

生田区中山手通二丁目二二の
二 番二九一四八五八
「グリル青山」は、トア
ロードの東側にある。こ
じんまりとした店だが歴
史は古い。普段の日は会
社関係の人が多いが、女
性客も多く、休日には家
族づれで食事を楽しむ姿
がよくみられる。



明るい「グリル青山」の店内

午前十一時から午後二
時まではランチタイムで
ステーキ(六百円)、チ
キン(五百円)があり、
野菜、赤だし、ライス付
二十名位の小パーティー
もできる。焼肉のタレ
はこの店特製のもの。
超特選ステーキ(サーロイン)
四五〇円、ヘル・ステーキ三
〇〇円、ロース・ステーキ三
二〇円、オムレツ四〇〇円、
青山定食(A二五〇円、同B四
〇〇円)
11・00A・M10・00P・M無休
番三三二一・二〇四



10名様前後のパーティーに特製かぶと焼をご利用下さい

かぶと焼き	スモークサーモン	¥ 1,300
マトン・ボーク・チキン	ビット・イ・パンナ	(スウェーデン風ポテトいため)
えび・いか・サーモン		¥ 1,000
各 ¥ 600		
ビーフ・ミックス各 ¥ 800	スモーク・シュツブラル	
水割(OLD)、アクアビット	(スウェーデン風肉だんご)	
各 ¥ 450		¥ 1,000



RESTAURANT & BAR

GOKSTAD

6:00 P. M. ~ 2:00 A. M. 水曜日休み
神戸市生田区山本通3の18 谷ロビル1F ☎ 242・0131

世界最高の品質を
誇るアラガワの支店

いろいろなパーティーにご利用
下さい。 1000円よりどうぞ。



レストラン

砂時計

正午 ~ 夜9時まで

(年中無休)

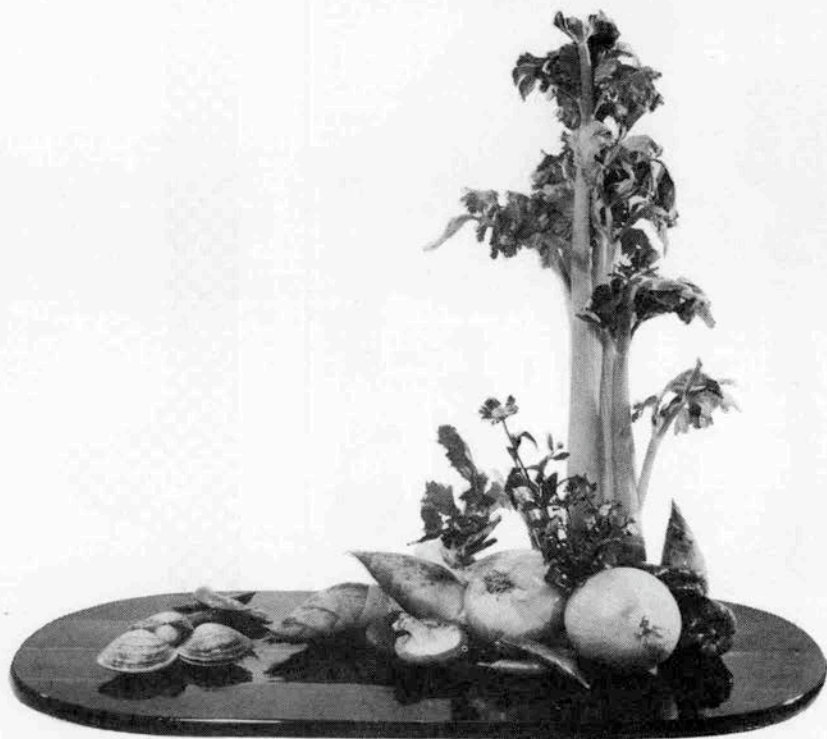
生田区山本通1丁目35

東洋ハイツ1階

TEL 241-1857

旬料理

山海の滋味ゆたかに
季節を盛りあげます。
熟練の調理士が新鮮な材料を
ぜいたくに使い、料理に新しさを
加味して盛りつけます。



季節料理「ばさら」

 婆娑羅

 ホテルソラ 直営店

婆娑羅は豊かな旬を生かした料理を
豪華な雰囲気の中でお召しあがりい
ただきたいと存じます。

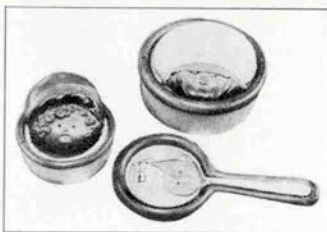
神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ
1F・2F ☎(078)321-6363

神戸百店会
だより



★やきものの町瀬戸から

楽しいやきもの展
元町1番街のイクシマヤ
2階ギャラリーで4月19日
から「瀬戸のノベリティと
クラフト展」が開かれま
す。瀬戸クラフト協会は瀬
戸市の後援を得て神戸では
初めて開くもので、「瀬戸
の伝統的な技術と新しい発
想で楽しい作品を作ろう」
というこの会は瀬戸の若い
陶芸家20人がメンバー。今
回は10人の作品が展示され
ますが、どれも趣好をこら
した手造りのもの。



みんなタノシイやきものばかりです

「ノベリティ」という言
葉はあまり耳にしません

が、実用一点ばりでなく、
遊びや装飾のための要素を
持ったもののことで、この
展示会には壁かけや置きも
の、ふたもの、花器など新
作一五〇点が出展されま
す。どれも素朴でやさしい
色と形、動物たちやメルヘ
ンの仲間たちの楽しいやき
もののばかりです。

■瀬戸のノベリティとクラフト展
4月19日(土)・27日(日)
10:30A・15:30PM
イクシマヤ 電話331・2415

★マキシビル完成
春は帽子にのって

トアロードマキシンの本
社ビルが完成して3月11日
この新しいビルで竣工披露
パーティが開かれました。
トアロード、元町の商店
主、全国から百貨店関係
者、ファッションデザイナー
などがたくさんかけつ
け「これからこの道で力
を尽くしていきたい」とい
う渡辺社長を囲んでビルの
オープンを祝いました。
続いて13、14、15日には
同ビル1、2、7階で春夏
の新作発表会が行なわれ、

マキシシンオリジナルの婦人
帽子が展示されました。マ
キシシンのショールウィンドウ
にはヒラヒラと明るい帽子
が飾られ、トアロードを歩
くのが楽しみです。



マキシビルの完成を祝ってパーティに集まった人たち

★紳士服飾西川が百店会に
入会されました。

ハイセンスな街トアロー
ドの中でも、本格的な仕立
てと英国紳士服の伝統をう
けつぐ西川が、神戸百店会
に新入会。

西川では4月17、18日に
大阪で、19、20日に神戸で
春夏物特別ご招待を行ない
ます。

脱どぶねずみ、神戸の男
性もよりダンディに。春で
すものね。

●ショップトビックス

★田崎真珠の1975年新作コレ
クション「すてきな首飾り」は、
3月10日から15日まで神戸オリ
エンタルホテルと大阪ロイヤルホ
テルで開かれました。

専属デザイナー、メリー・重富
さんの、新進で前衛的でありなが
ら女らしさにあふれた作品コレク
ション、またタサキが人工採苗に
成功したマベの半円真珠のパンダ
ントなども好評です。

★75ミキト春の特別展示会「街
かどにて」は3月20、21日大阪ロ
イヤルホテル、24、25日神戸オリ
エンタルホテルで開かれました。
宝石をファッション、生活感覚
など動いている背景のなかでとら
えていくというミキトでは、
英国銀器のトラップデザイナー、ク
リスティアン・ローレンツと独
立契約を結び、その華やかな最新作も
紹介されました。

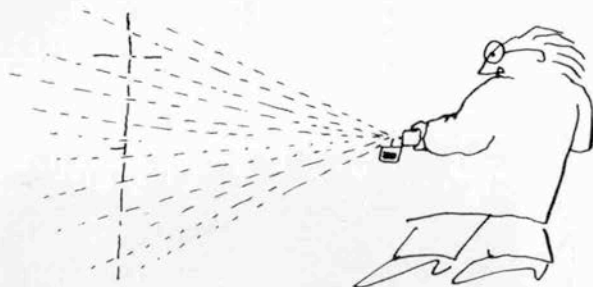
★オートクチュール装苑の夏の
展示会が3月5、6、7日ニュー
ポルトホテルで開かれました。
浮えたいきれいな色のプリントや
大胆な柄のワンピースからロング
ドレスまで、どれも女性のかわい
らしさ、優雅さをデザインしたエ
レガントなものでした。

★エスターニュートの75夏の
展示会が三月十一日・十三日開か
れました。シンドクシンのプリン
トものが中心で、藤色などの女ら
しいソフトカラーが多く、ハイセ
ンス神戸っ子を楽しませてくれ
ました。

★スギヤ宝珠店が二月二十八日改装
オープン。白木を中心に明るくは
まじげなデザインが中心に、
春の服が素敵にディスプレイされ
ています。



宝塚南口ファミリーストアのスギヤ



やったぞ!!

Project P

よせ!
それにさめっちゃ
ならん



やめんか!

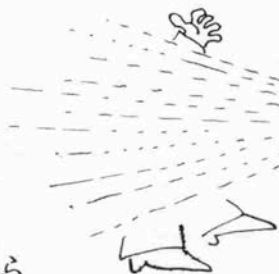
ばかもの!

まて

やめ...

やめてよ

やめていたら



ほら
ごらんさい
やめてって
いったでしょ

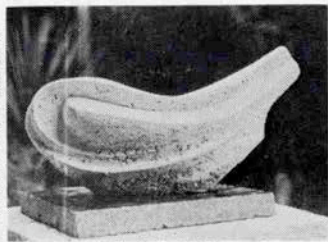




★彫刻のある町づくり

今年も三点が設置

兵庫県がすすめている郷土の町かど、公園、広場などに彫刻作品を飾って美しい環境づくりをはかる「彫刻のある町づくり」が四年目を迎え、兵庫県在住作家の作品三点が三月上旬に設置された。



斉藤正親作「飛翔」

今年選ばれた作家は、大上喜弘さん（三原郡緑町山添）、斉藤正親さん（宝塚市野上）、田中薫さん（神戸市垂水区）、の三名で、大上さんのステンレス・スチールの作品「そよ風のワルツ」は三田市中心公民館前庭、

斉藤さんの黒大理石の作品「飛翔」は多紀郡の篠山城趾正面公園、田中さんの黒みかげ石の作品「潜在」は出石郡出石町入口広場に設置され、美しい環境づくりに役かっている。

★神戸空襲戦没者に送る

三十年前の神戸大空襲（昭和二十年三月十七日）の犠牲者を弔うための「神戸空襲戦没者慰霊碑」が、神戸市葺合区小野柄通五丁目一ノ七号北村ビル霊苑（231）（三二五）の五年にわたる建設運動によって、神戸の彫刻家グループ「環境造形Q」山口牧生・増田正和・小林陸一郎のデザインによる「己の塚」が完成。その除幕式が、春めく三月十日、甚大な犠牲者を出した兵庫区の大輪田橋に近い葉仙寺の境内に設置され約二百名近い遺族や、関係者が集まって開かれた。

百円募金（九五三名）者、終戦時市長の中井一夫さんらの尽力によるこの黒御影の己塚は、死者に無限の風を送る「宇宙の風車」として、平和の祈りをこめた吊いの碑である。

★「やちまた」の足立巻一

さんに文部大臣賞

文部省の昭和四十九年度芸術選奨文部大臣賞が決定した。演劇、映画など十部門の芸術分野のうち、文学部門に「やちまた」の著者足立巻一さん（須磨区若木町一）が受賞した。

「やちまた」は、本居宣長の長男で語学者の春庭を人生の機微に触れる詩人の鋭い人間観察眼でとらえた、新しいジャンルを拓く評伝文学の労作であり、「春庭に興味をもったのは学生のころで、以来関心をもちつづけたのだから、四十年あ



足立巻一さん



おこそかに慰霊祭

誕生日
ありがとう
運動



★十周年記念写真展

神戸でうぶ声をあげ、地元の神戸をはじめ全国の方からのあたたかいご支援ご協力によって、順調に成長してきた誕生日あたりがとう運動は、この五月八日で満十周年を迎えます。

記念行事として、先号でお知らせしました作家水上勉氏を迎えての講演会について、写真展を左のとおり行ないます。

◇とき 五月一日（木）から五月六日（火）まで

◇ところ ギャラリーさんちか
◇展示 「本運動十年の歩み」と「重症児施設の報告」みなさまのご参加をお待ちしています

★誕生日あたりがとう運動とは

ちえおくれの問題についての社会啓発運動です。

具体的には、みなさんの誕生日のお祝の中から、意識的に百円節約して献金してください。そして各家庭で、この問題について話し合う機会をもってください。

このことを手がかりとして、わたしたちが、ちえおくれの子を正しく理解し、また同時に、ひとりひとりのかけがえのない生命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしようという運動です。

★誕生日あたりがとう運動本部

神戸市葺合区御幸通八十一一六神戸国際会館一階の郵便局の前
電話二五一八六一一内線三二六

まりこの人につきあつてきた」と語る足立さんのライフワークの成就である。

「やちまた」河出書房新社 上下巻 各四五〇頁各一六〇〇円

★現代作家と南蛮美術館

南蛮美術のコレクションでは海外にも知られる存在の市立南蛮美術館で、美術館活動の新分野をひらこうと「現代作家と南蛮美術館」という課題のもと「河口龍夫・植松奎二展が開かれた（三月十五日・四月六日）」

作家が美術館の建物や所蔵品などその特色を考慮したうえで作品を展示するというだけにふきぬけや柱のある空間をうまく利用してあり、河口氏はあいかわらず哲学的な作品を、植松氏も若々しい作品を展示し、神戸を代表する現代作家二人が気をはく作品展だった



南蛮美術館のふきぬけに展示された作品

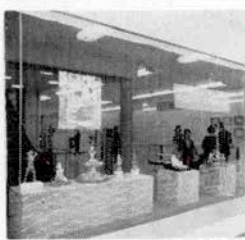
★アモレを刻む ヴィル

シリオ・モルテット展、イタリア彫刻の正統派、ヴィルシリオ・モルテットさんの作品展が三月六日

十八日まで大丸四階特選美術サロンで開かれた。

ブロンゼット彫刻の伝統を受けつぐモルテットさんの作品が約三〇点、神戸の芸術ファンの前にお目見えしたわけだが、モルテットさん自身は過去に神戸に滞在してたこともある大の親戚で、日本の芸術にも深い理解を示し、神戸在住の彫刻家新谷琿紀さんとは親友の間柄。

「人間にとってアモレ



特選サロンでのモルテット展

が一番大切」とつねにいうモルテットさんの作品にはその言葉どおりアモレが刻まれている。イタリア人の古典につねに関心をもち伝統を受けつぎ自分なりに消化していくという伝統の厚さ、血の流れを感じさせる作品群にモルテットファングがまた増えそうな二週間だった。

★風はみどり 空はあお

よそおいは春 ウィンドウをのぞくだけでも楽しい大丸前のクチュールカセットが北野町にファンタスティックサロン



優雅な店内と砂川先生

（生田区北野町4丁目49カサフエニックス1F）を三月五日オープン。この日から十日まで「春夏新着展示即売会が催された。」

砂川松枝先生が美しい婦人服地やブレタ、紳士洋品舶来雑貨の数々を選んでこられただけあって素敵なのばかり。ドレスをゆつくり選び、談笑し、というファンタスティックサロンには、ピアノや、ゆつたりくつろげるソファがあつて、神戸らしい雰囲気にあふれた店。北野坂をゆつくり歩いて、どこからともなく漂う春のかおりを満喫しませんか。

★残したいわかしばなし 語り承きたいおはなし 民話ばやりの今日このごろ、神戸でも豊かな歴史のふるさと須磨区では、須磨



妙法寺の弘法井戸

美術ガイド



★兵庫県立近代美術館

南フランス・ニース美術館展
ルノワール・マチス・デュフィ
4/12/5/11

★白鶴美術館

中国の陶磁
3/15/6/1

★南蛮美術館

河口龍夫・植松奎二作品展
3/15/6/1

★大丸百貨店美術画廊

神戸二紀20周年記念展 阪神第2回甲子会
4/3/4/8

★KCCCアートギャラリー

山口響子俳句展
4/17/4/22

★KCCギャラリー

岩見健二個展
3/27/4/2

★ギャラーさんち

佐野政男写真展
4/3/4/8

★香雪美術館

春季展「仏教美術と茶道具」展
3/12/6/15

★ぎやうりー神戸

木村茂嗣版画展
4/13/4/19

★西宮市大谷美術館

ジョルジュ・ルオー展
4/6/5/27

KOBE POST

★パリ滞在一年。西村功画伯が3月15日帰神。神戸新聞KCCギャラリーで早々個展を開かれた。

★本誌、まだ遅くない、の葉月一郎こと、重森守さんは、3月1日からアサヒフアミリーニース社編集長に栄転されました。

★自動車評論家の川口陽之さんが舞子中学の西園へ移転。新住所は〒655神戸市垂水区狩野台二丁目五十二番七八一—三三六六です。

★ゴンチャロフ製菓KKの三戸伊之介さんは二月十八日付で会長に光澤貞夫さんが社長に就任されました。

★神戸新聞社の松井高男さんは三月十五日付で、神戸新聞出版事業社社長に、文化事業局長には佐野蓮實さんが姫路からの帰任です。

★オリエンタルホテルの販売促進部から新職者の方々のお知らせ。三本研美部長、古杉繁美次長、岡本博之外商課長、横山義弘外商係長というスタッフです。

★トアロード。サントノレ、で3月1日からシャンソン・ラテンカンツォーネを唄う森哲也さんが新しく契約され、ハートのある歌で午後8時〜11時迄出演中です。

★シャンソンの堀部子さんはトアロードスカイ・アール3Fに、E・T・O・I、を開かれました。

★神戸大丸のアートデレクターとしても新鮮な活躍ぶりの森田謙士デザインターの森田謙士さんが、神戸市生田区江戸町101〒650三共生興スカイビル402室078-3311078

、KKアート・ハウスの黒とグリーン、の素敵な事務所をOPEN★サンセブンが、映像、音響の全メカと技術によるスタジオ・サンセブン（室長大審実）スタート。

事務所さんブラザーF賞（贈）311-102117

ない。その点、大いに楽しめる詩的世界である（同書金井直氏のまえがきより）

発行所／株式会社無限（東京都渋谷区渋谷二の九の一）〇〇 青山台ビル五〇〇／振替東京69027番

★素直に歌った還暦記念

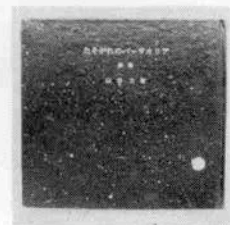
歌集「線美集」刊行

出口草露さん（兵庫区在住）の歌集「線美集」が「草露集」「清香集」「創風集」に続いて発行された。

「私は歌を愛し、書を愛しつづけて来た。私の書いた文字は私以外の何者でもなく、私の詠んだ歌は私以外のなにもでもない」という草露さんの還暦記念の歌集で、昭和四十年から四十九年の愛を根幹とした心の声収められている。

「線美集」出口草露 初音書房発行 二七七頁二五〇〇円

万円を法人の会費と寄付金だけでまかなっているため、慢性的な資金不足の状態から抜け出せず、やむを得ず閉鎖の動きもあったと聞く。兵庫県社会賞や神戸新聞平和賞なども受賞したこの民間の社会福祉機関が、福祉都市づくりを市政の三本柱の一つとしている地元神戸市で閉鎖されてしまうというのは全く遺憾なことでありひいては日本の民間社会事業の前進に大きなマイナスともなる。神戸っ子のメンツにかけ



「たそがれのバスサカリア」

詩人の山口三智さん（造形作家山口牧生氏夫人）が第一詩集「錆びた時」（一九六六年）に続いて第二詩集「たそがれのバスサカリア」を出版した（千五百円）装幀も三智さんの手になるもので、全体は五部に分けられている。

「三智さんは女性にしてはめずらしいウィット的主である。ここには、女性特有の日常的感懐や愚痴は

編纂されている。また、近いうちに「原画展」や「物語の舞台を歩く会」を開く予定。

「すまのむかしはなし」は須磨区役所に配布中。無料

★山口三智、第二詩集出版

花時計

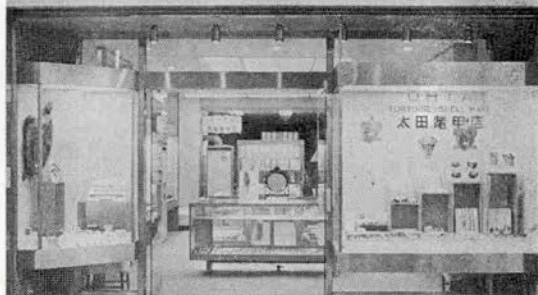


がんばれ

。愛の手、運動

神戸で生まれ、この十数年間ユニークな里親開拓運動を展開してきた「愛の手」運動が財政難のため危機に直面しているという。年間約一千万円の予算のうち公費補助は三百万円弱で残り七百

太田鼈甲店

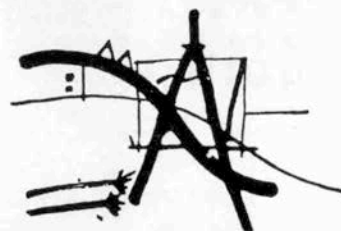


べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195

額縁絵画・洋画材料 室内工芸品



末積製額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309・6243

KOBE SHOPPING GUIDE

おすし
てんぷら



栄
彌



本店 大丸前・三宮神社東

TEL(331)5772

(毎週水曜日休み)

支店 さんちか味ののれん街

TEL(391)5233

(第3水曜日休み)

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388

生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817・3173



Happy Wedding

*ウェディングケーキ
ご婚礼・お引菓子予約承ります

北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・熊内店 神戸市東灘区熊内町1の8(市立美術館東隣) TEL.221-1164
■三宮センター店・さんちか店・大丸・そごう・阪急・三越・神戸デパート・元町店



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

KOBE SHOPPING GUIDE

ムサシ

やっぱりうまい
むさしのとんかつ

ムサシ

でんわ・

321 321 331 — 三三七一
〇六三四
〇六三五

Wanted!!

(♥会員募集中)

1.ボーイフレンド・ガールフレンド募集中のあなたは

フレンドコース

2.いますぐ<結婚>なされたいあなたは

結婚コース

●レモンクラブには2ッコースがございます
おすきなコースをお選びください。

レモンクラブ 事務局

代表者 山下駿児

お問合せ TEL241-8080(代)

後援/月刊「神戸っ子」編集部